

2020年度 後期 教養教育		日英区分:日本語
クラウド入門		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2344	1000LB1AS00075	【教養教育】学びのリテラシー（2）
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
横山 重俊 [Shigetoshi Yokoyama]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

クラウドサービスの利用方法を身につける。

■ ■ 授業の到達目標

クラウドサービスについてその成り立ちやその動作原理について語れる。
クラウドサービスを使ったアプリケーション構築について理解する。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ◎
C：コミュニケーション能力 ◎
D：社会的倫理観・国際性 ○
(◎：特に重視する、○：重視する、△：評価対象、－：評価対象としない)

■ ■ 授業概要

我々が利用する機会が増えて来ているクラウドサービスについてその成り立ちやその動作原理について学ぶ。グループでのクラウドサービスを使ったアプリケーションの構築と発表を通じて、クラウドサービスの利用方法を身につける。コンピュータシステム、クラウド基盤の構築・運用の実務経験のある教員がそれらの経験をふまえた授業を展開する。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

演習形式

■ ■ 授業スケジュール

第1週 ガイダンス 演習環境設定
第2週 Linux
第3週 インターネット
第4週 Webサービス
第5週 クラウド
第6週 クラウドコンピューティングの今後
第7週 コンテナ技術
第8週 コンテナ技術演習
第9週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(1)
第10週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(2)
第11週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(3)
第12週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(4)
第13週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(5)
第14週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(6)
第15週 発表会

■ ■ 授業時間外学習情報

※1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】15～30時間（授業時間外30～15時間）
【実験・実習・実技】30～45時間（授業時間外15～0時間）

講義で配布した課題の演習（小課題）

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）

課題提出、最終報告

■ ■ 受講条件（履修資格）

簡単なプログラム作成能力、インターネットを利用する能力を有すること。また、コンピュータシステムについての知識があることが望ましい。

■ ■ メッセージ

情報技術の流れをとらえ（過去→現在）
最先端に触れる（現在→未来）

■ ■ キーワード

クラウド、仮想化、コンテナをキーワードに実務経験のある教員が講義を実施する。

■ ■ この授業の基礎となる科目

コンピュータネットワークとセキュリティ

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl2.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=437>

2020 年度 後期 教養教育		日英区分 :日本語
知っておきたい肺とアレルギーの話		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2210	1000LB1HS00018	【教養教育】健康科学科目群
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
久田 剛志 [Hisada Takeshi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

肺は、酸素を取り込む臓器です。常に外界（周りの空気）と触れ合っているため、多くの病気がおこります。アレルギーを含めた呼吸器の疾患について、医療関係者のみならず、皆が知っておきたい肺とアレルギーの知識についてやさしく解説します。呼吸器を中心として、病気の成り立ちや予防法、治療法の基礎を理解し、今後の生活に役に立つ基本的な知識を身に付けることを目的とします。

■ ■ 授業の到達目標

教養教育の科目ですので、専門知識がなくても理解できるレベルです。以下を到達目標とします。

基本的な呼吸の仕組み、肺の働きについて説明できる。
代表的な呼吸器疾患の成り立ちを説明できる。
呼吸器疾患やアレルギー疾患の予防法や治療法の基本について説明できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 -
D：社会的倫理観・国際性 -

この科目を受講することによって、人体の巧妙な仕組みと各種疾患が発症するメカニズムを理解することはいろいろな学部専門教育にも通じるところがある。また、自己の健康管理にも役立つものである。

■ ■ 授業概要

呼吸機能について、また喫煙の健康への影響、呼吸器疾患とアレルギー（肺癌、結核、肺炎、睡眠時無呼吸症候群、喘息、花粉症など）をやさしく、予防法なども含めて解説します。（呼吸器疾患、アレルギー疾患、感染症に対する専門医である教員が、その実務経験を活かして授業を行います。）

■ ■ 授業の形式（授業方法）

プリントを配布し、講義形式。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回 肺の働き、呼吸の役割
第2回 タバコの影響・・・軽いタバコならいいのでしょうか？ 新型タバコは？
第3回 タバコ病である肺気腫（COPD）を知り、あとで後悔しないようにしましょう
第4回 肺がんを知り、予防に心がけましょう
第5回 睡眠中に息がとまっていませんか？ 睡眠時無呼吸症候群
第6回 結核、なぜマスクミで騒がれたのでしょうか？
第7回 まとめ①
第8回 肺炎・インフルエンザ 超高齢社会において
第9回 アレルギーは、どうしておこるのでしょうか？
第10回 喘息はなぜおこるのでしょうか？ 予防と治療は？
第11回 花粉症を何とかするには？
第12回 鳥の飼い主などを襲う息苦しい病気 - 過敏性肺炎
第13回 環境や職業によっておこる肺の病気？
第14回 食事による病気の予防！ 呼吸器疾患やアレルギーにも・・・
第15回 呼吸リハビリテーション
第16回 試験

※ 予定が変更になる場合には、随時連絡します。

■ ■ 授業時間外学習情報

※ 1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】15～30時間（授業時間外30～15時間）

【実験・実習・実技】30～45時間（授業時間外15～0時間）

教科書は必要ない。毎回プリントを配布する。よく復習し、知識を確実なものにして欲しい。試験は記述式であり、プリント内容を理解していれば解答できる。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）

試験にて評価する。成績評価は、S(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、D(59点以下)とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。ただし、Sは上位5%以内とする。

■ ■ 受講条件（履修資格）

全学部生

■ ■ メッセージ

肺の病気は、年齢を問わず発症し、様々なものがあります。病気の本質とその予防法を理解し、健康な生活を送れるように努めましょう。新しい話題も随時取り入れてやさしく解説します。

■ キーワード

肺 呼吸器 喫煙 肺がん 結核 アレルギー 喘息 睡眠時無呼吸症候群 ω 3 脂肪酸 実務経験

■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ 次に履修が望まれる科目

特になし

■ 関連授業科目

特になし

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

特になし

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

がん予防・治療・ケア

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2437	1000LB1HS00002	【教養教育】健康科学科目群
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
二渡 玉江 [Futawatari Tamae]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

がん予防・治療・ケアについての知識を深め、自分および身近な周囲の人の医療行動に役立てることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

1. 日本や群馬県におけるがん対策について概説できる。
2. がんの疫学・がん予防に必要な生活習慣を述べることができる。
3. がん3大治療である手術療法、がん薬物療法、放射線療法を概説できる。
4. 3大治療に伴うケアの方法を述べることができる。
5. がん治療における意思決定支援の必要性を述べることができる。
6. 緩和ケアの概念の変遷から必要性を述べることができる。
7. がん看護における家族ケアの必要性と方法を概説できる。
8. がん看護専門職の役割と活動の実際について概説できる。
9. がんや治療に伴う様々なストレスを緩和する方法について概説できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
 B：論理的・創造的思考力 ◎
 C：コミュニケーション能力 ○
 D：社会的倫理観・国際性 ○

■ ■ 授業概要

本科目は、医師、看護師の実務経験のある教員が、実務経験を活かして授業を行う。

がん医療の動向、がん医療をめぐる一次・二次・三次予防の意味を知る。がん発病にいたるメカニズムと主な治療を理解し、がんを予防するための生活習慣について学ぶ。また、がんの早期発見のための検診や自己チェックの方法について理解を深める。それをもとに自分自身の生活を振り返りがんを予防する生活習慣を獲得できるような動機付けとする。

さらに治療選択における患者と医師・看護師との関わり、抗がん剤・放射線を受ける患者の症状マネジメント、手術を受けた患者の身体・心理的变化を知り、がん治療におけるセルフマネジメントのあり方を考える。さらに終末期における医療を受ける場、緩和ケア・ホスピスケアについての知識を深め、がん医療・ケアについて考える。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義・一部演習形式

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	がんの疫学、がん医療をめぐる国・県の政策について学ぶ。 10/1 二渡
第2回	がん発症メカニズムについて学ぶ。 10/8 小澤厚志
第3回	がんの診断、検査について学ぶ。 10/15 小澤厚志
第4回	がん予防のための生活習慣について学ぶ。 10/22 二渡玉江
第5回	がん治療、抗がん薬治療とケアについて学ぶ。 10/29 渡邊 恵
第6回	がん治療、放射線治療（有害事象含む）とケアについて学ぶ。 11/5 北田陽子
第7回	がん治療の意思決定について考える。 11/12 二渡玉江
第8回	外科治療を受けた患者の身体・心理的变化について学ぶ。 11/19 二渡玉江
第9回	がん治療に伴うボディイメージの変容とケアについて学ぶ。 11/26 二渡玉江
第10回	がんに伴うストレスを緩和し免疫を高める方法を学ぶ。 12/3 近藤由香
第11回	がん看護専門看護師（CNS）の役割と活動の実際を学ぶ。 12/10 角田明美
第12回	群馬大学医学部保健学科における市民向けがん医療・ケアの取り組みを学ぶ。 12/17 二渡玉江

第13回	終末期にあるがん患者と家族のケアについて学ぶ。 12/24 京田亜由美
第14回	緩和ケア・ホスピスケアについて学ぶ。 1/7 金子結花
第15回	まとめ レポート提出 1/21 二渡玉江

■ 授業時間外学習情報

※ 1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】15～30時間（授業時間外30～15時間）

【実験・実習・実技】30～45時間（授業時間外15～0時間）

講義中に課題を提示する。復習を行いレポートを作成すること。
自己の考えが述べられているレポートを期待します。

■ 成績評価基準（授業評価方法）

レポート（100点）

なお、2/3以上出席しないと最終試験であるレポートを提出することはできない。

■ 受講条件（履修資格）

特になし

■ メッセージ

積極的な質問を歓迎します。

■ キーワード

がん予防、セルフケア、治療、緩和ケア、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ 次に履修が望まれる科目

特になし

■ 関連授業科目

特になし

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

なし

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

2020年度前期 教養教育		日英区分：日本語
生態系と環境		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB1276	1000LB1NS00026	【教養教育】自然科学科目群
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
西村 尚之 [Nishimura Naoyuki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

現代の様々な環境問題、特に、生物との関わりが深い問題を理解するためには、生態学の知識が重要である。生態学は自然界における生物の生命活動をその生物群を取り巻く環境と関連させて学問する生物学の1分野である。そこで、本講義では、同種個体の集まりである個体群や異種個体群で形成された生物群集の特徴を理解し、これらの生物集団と環境との相互作用系である生態系に関する正しい認識から私たち人間の生存にかかわる自然界で起こる課題について説明できるようになることを目的とする

■ ■ 授業の到達目標

生物個体、個体群、群集とはどのようなものか具体的にイメージできる。
生物間相互作用と群集の成り立ちや機能について考察できる。
生態系と人間環境との関係を正しく理解できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 -
D：社会的倫理観・国際性 △
（○：特に重視する ○：重視する △：評価対象 -：評価対象としない）

■ ■ 授業概要

自然界の生物は、何らかの形で集団を成して生育している。自然界における生物の存在は、個体、個体群、群集などといったさまざまなレベルで観察される。そのような生命現象には普遍的な性質が存在し、一方、生命体のすがただけでなく生命体の演ずる現象もまた多様である。これらを具体的にイメージして理解することは難しい。そこで、このような生物圏に関する知識を科学的に理解するために、生態学の基礎に立ち、実際の科学的なデータを取り上げながら、講義を行う。なお、本講義は環境アセスメント・環境政策・農林業普及教育の実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、生物環境の授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

今年度はスケジュール・評価方法が変更になります。このシラバス内の学生用連絡先のリンクをクリックしてください。

通常の講義形式であるが、生物現象について理解するためには視覚的な教材も必要である。そのため、スライドやビデオなども活用する。

■ ■ 授業スケジュール

今年度はスケジュール・評価方法が変更になります。このシラバス内の学生用連絡先のリンクをクリックしてください。

- 第1回 ガイダンス：履修上の注意と本講義の内容（生物学の中の生態学）
- 第2回 生態系と自然環境：生命の共通性と地球上での生物の存在
- 第3回 生物種の分類と種数：地球上に存在する生物種数と進化
- 第4回 生物集団の特徴：生物と環境要因、および生物個体群の特徴
- 第5回 生態系の成り立ち1：生物群集と生態系の安定性
- 第6回 生態系の成り立ち2：生態系における物質生産の役割
- 第7回 生態系の成り立ち3：生態系における物質循環の役割
- 第8回 個体群の成長過程：生物増殖（出生と死亡）のモデル（指数モデルとロジスティックモデル）
- 第9回 生物間の相互作用：種間の競争排除の原理とニッチ（生態的地位）とすみわけ
- 第10回 生物進化と生存戦略：自然選択と様々な生活史戦略
- 第11回 世界のバイオーム（生物群系）：生物集団の地理的分布と地球上の様々な生態系
- 第12回 日本の植生：日本の森林生態系の成立条件とその特徴
- 第13回 植生の遷移と森林の維持機構：生態系の変化と植物群集の移り変わりの仕組み
- 第14回 生物多様性と生態系：生物多様性とは（種多様性の指標と生態系の機能・サービス）
- 第15回 まとめ（生物圏と地球環境）：生態系保全に必要なことは何か？

■ ■ 授業時間外学習情報

※1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】15～30時間（授業時間外30～15時間）

【実験・実習・実技】30～45時間（授業時間外15～0時間）

指定された教科書の予習と復習

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）

課題（30%）、学期末の筆記試験（70%）により評価する。筆記試験は100点満点の問題を出題し、評価には各自のこの筆記試験の素点×0.7とした点数を使用します。課題や試験の評価基準は、生物個体、個体群、群集を具体的に説明でき、かつ、生物間相互作用と群集の成り立ちや機能を理解して、生態系と人間環境との関係を考察できるレベルを判定して、これらを総合的に判断して最終成績を決定する。

今年度はスケジュール・評価方法が変更になります。このシラバス内の学生用連絡先のリンクをクリックしてください。

■ 受講条件（履修資格）

生物に興味があること。

■ メッセージ

出席回数が全講義（15回）の3分の2以上の場合に限り筆記試験の受験を認める。特別な理由がなく、自己都合により第1回目ガイダンスかつ第2回目の講義を受講しないものには履修を認めない場合がある。出席や課題などにおいて規律違反をした学生には絶対に履修を認めない。また、許可無く講義中のパソコンやタブレット・スマートホン・携帯電話の使用を認めない。

■ キーワード

生態学、生物群集、個体群、生態系、生物圏、生物多様性、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ 次に履修が望まれる科目

特になし

■ 関連授業科目

特になし

■ 教科書

教科書1	ISBN	9784320057869				
	書名	大学生のための生態学入門				
	著者名	原 登志彦(監修)・西村 尚之(著)	出版社	共立出版	出版年	2017
	備考	必ず購入すること				

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

2020 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語
文化人類学		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2366	1000LB1SS00015	【教養教育】社会科学科目群
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
志村 真幸 [Masaki Shimura]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

日本や欧米諸国とはまったく異なった生き方をしているひとびとが、アジア、アフリカ、オセアニア、中南米などに大勢いることを理解し、さらにそこから自分たち自身の思考や生活を客観的に説明できるようになることをめざす。

■ ■ 授業の到達目標

自分とはまったく異なった価値観を、許容・理解できるようになる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A : 諸科学についての基礎的知識と理解 ○
 B : 論理的・創造的思考力 ◎
 C : コミュニケーション能力 ○
 D : 社会的倫理観・国際性 ◎
 ○ : 特に重視する ○ : 重視する △ : 評価対象 - : 評価対象としない

■ ■ 授業概要

- ①文化人類学という学問の扱う対象と目的について、現代的な意義をふまえたうえで講義する。
 - ②19世紀における人類学の発生から、社会進化論、機能主義、文化相対主義へと至る歴史を概説する。
 - ③本講義では、とくに日本/西欧世界と他地域（アジア、アフリカ、オセアニア等）の関係に重点を置く。
 - ④最終的には、グローバル化する現代社会における文化の問題を受講者に理解してもらうことをめざす。
- 博物館での展示企画や、学生/市民向け実習の実務経験のある教員が、その実務経験を生かして、フィールドワークの授業を行なう。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

原則として、講義形式で行なう。
 そのほか数回のフィールドワークを予定している。学生でグループを組み、それぞれ学外で実施する。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回 文化人類学とは何か
- 第2回 文化人類学の方法
- 第3回 食
- 第4回 衣
- 第5回 住まいと家族
- 第6回 民族と心理
- 第6回 科学・技術の人類学
- 第7回 医療人類学
- 第8回 宗教、動物、魂
- 第9回 環境と公害
- 第10回 スポーツとあそび
- 第11回 観察と実践
- 第12回 フィールドワークとは何か
- 第13回 模擬フィールドワーク
- 第14回 模擬フィールドワーク
- 第15回 現代社会における文化人類学の役割

■ ■ 授業時間外学習情報

※ 1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

- 【講義・演習】 15～30時間（授業時間外30～15時間）
 【実験・実習・実技】 30～45時間（授業時間外15～0時間）

授業内で示す参考書やサイトなどによる予習・復習が望ましい。
 また、フィールドワークは、時間外の実習となる可能性がある。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）

- ・ 授業内提出物（課題への回答など）：30%
- ・ フィールドワークの報告：30%
- ・ 最終レポート：40%

■ ■ 受講条件（履修資格）

特になし。

■ ■ メッセージ

文化人類学という学問を通して、自分たちとは異なる文化・生活・習慣・考え方もつひとつとびとに対して、理解を深めていってほしいと思います。
 なお、受講に際しては私語、携帯電話操作等、他人の迷惑となる行為を禁じます。

■ ■ キーワード

フィールドワーク、文化相対主義、生と死、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

備考	授業内に指示する。
----	-----------

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2020 年度 後期 教養教育		日英区分 :日本語
比較芸術論		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2325	1000LB1HU00048	【教養教育】人文科学科目群
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
菅生 千穂 [Sugo Chiho], 林 耕史 [Hayashi Koshi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

音楽、美術などの芸術は、それぞれの文化的歴史的背景の前に多様な姿を示しているが本講義では、音楽を中心にいくつかの作品を抽出し、美術分野からの視点を含む多様でユニークな観点で比較考察することで、それらの芸術的特質について分析を試みる。講義やディスカッション等を通して、学生の持つ芸術への興味が深まり、柔軟な視点や考え方を養成することを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

音楽や美術、芸術にこれまで以上の興味・関心を持つようになる。
既知・既成の概念にとらわれず、これまでと違った芸術や文化への視点を持つことができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ◎
C：コミュニケーション能力 ◎
D：社会的倫理観・国際性 ○

■ ■ 授業概要

音楽、美術など古今東西の芸術は、それぞれの文化的歴史的背景の前に多様な姿を示している。楽曲や美術作品など、ひとつのものに注目するのみではなく、いくつかの窓口を通して視聴比較することで、それらの特徴や魅力が浮き彫りになる。本講義では、古今東西の芸術から音楽を中心にいくつかの作品を抽出し、独自の観点で比較考察することで、それらの芸術的特質について分析を試みる。なお、各講義においてリフレクション・ペーパーを提出し、学期中1～2回のレポートを課す。

（音楽演奏家としての実務経験のある音楽教員と、彫刻家・美術教育家としての実務経験のある美術教員による各分野からの視点を生かした比較芸術を試みる授業をおこなう）

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義形式、グループでの対話・討論を含む

■ ■ 授業スケジュール

実務経験のある2名の教員による複数授業（全回）

- ① ガイダンス～音楽と美術
- ② 音楽、美術、その今と昔
- ③ 20・21世紀と19世紀の音楽、美術
- ④ 東洋と西洋の音楽、美術
- ⑤ 北半球と南半球の音楽、美術の比較
- ⑥ 音楽における「数」の違いによる比較
- ⑦ 音楽における「拍子」などの違いによる比較
- ⑧ 音楽の「調性」の違いによる比較
- ⑨ 同曲異演の比較（1）～楽器、演奏形態の違い
- ⑩ 同曲異演の比較（2）～演奏者の違い
- ⑪ 同曲異演の比較（3）～同一演奏者のなかみられる違い
- ⑫ 印象派における音楽、美術
- ⑬ 国策としての音楽、美術
- ⑭ 現代アートとしての音楽と美術
- ⑮ これからの音楽と美術

■ ■ 授業時間外学習情報

※ 1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】15～30時間（授業時間外30～15時間）

【実験・実習・実技】30～45時間（授業時間外15～0時間）

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）

配分は、平常の授業への参加度、大小レポートを40点、30点、30点として行う。

成績評価は、S(90～100点)、A(80～89点)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下)とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする

■ ■ 受講条件（履修資格）

特になし

■ ■ メッセージ

■ ■ キーワード

芸術、音楽、美術、比較、楽曲、作品、様式、芸術史、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2020 年度 前期 教養教育		日英区分 :日本語
生命保険の仕組みと活用を考える		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB1279	1000LB1IS00071	【教養教育】総合科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
杉山 学 [Sugiyama Manabu], 荒木 孝志 [Takashi Araki]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

社会保障制度の仕組みや自助努力で将来に備えることの重要性を理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組み・役割等について学ぶことを通じて、これからの持続可能な社会を営む一員として役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

■ 授業の到達目標

社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することが出来る。
現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組み等を理解し、説明することが出来る。
大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することが出来る。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 ○

■ 授業概要

この授業では、まず私たちを取り巻く経済環境について概観する。
その理解の上で立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なあり方や、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めていく。
また、グループ単位で課題分析・解決策等を議論し、提言としてまとめあげるグループディスカッションも予定している。
全ての講義において、大手生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通した幅広い知識・経験・実績を有する講師陣が担当する。
経験談や最新の情報提供も随所に織り込み、理論と実践の両面から理解を深めていく。

■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習（グループディスカッション）。
演習（グループディスカッション）は2回程度、少人数に分かれて与えられたテーマに対する解決策の議論等を行う。

■ 授業スケジュール

- 1：オリエンテーション・生保総論
- 2：生活設計とリスク管理①
- 3：生活設計とリスク管理②
- 4：公的保障と生保（死亡・医療）
- 5：公的保障と生保（老後・介護）
- 6：生保契約の仕組み
- 7：グループディスカッション
- 8：生保商品の変遷・動向
- 9：生保に関する調査
- 10：生保会社の組織・業務
- 11：隣接業界（少額短期保険等）
- 12：震災対応
- 13：金融ADR
- 14：グループディスカッション
- 15：総括

※受講生の理解度や履修人数によっては、内容・順番を見直す場合があります。

■ 授業時間外学習情報

※1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

- 【講義・演習】15～30時間（授業時間外30～15時間）
【実験・実習・実技】30～45時間（授業時間外15～0時間）

授業で使用した資料に基づいて一時間程度の復習を行うことが、内容理解において望ましいと考えます。

■ 成績評価基準（授業評価方法）

「授業への参加度+（受講回によって実施）小レポート等の内容」60%
「最終試験得点」40%で評価します。

最終試験は学期末に実施します。下記の観点から評価を行います。

- ・社会保障制度の概要の理解
- ・生命保険の意義・役割・仕組み等の理解

小レポート、グループディスカッションでは、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

■ 受講条件（履修資格）

■ メッセージ

少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなると考えます。

■ キーワード

公的保障と私的保障
公助と自助
生活設計
リスク管理
実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

毎回の講義時に資料を配布する。

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

病理学

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB3011	MB3PM02400	

■ ■ 担当教員（ローマ字表記）

小山 徹也 [Oyama Tetsunari], 横尾 英明 [Yokoo Hideaki], 佐野 孝昭 [Sano Takaaki]

■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ~ 3年次	2

■ ■ 授業の目的

様々な病気がいかなる原因で発生し、その際にどのような変化が人体内にどのような過程を経て現れるか、その結果、臓器組織細胞に形成された病変はどのような特徴を持っているかを学ぶ。病気の病態は病理学的な言葉で表現される。この授業では病理学的用語の概念を正確に理解することも目標である。

病理学の講義と実習は3年次から6年次まで開講されている。よって各学年ごとに段階的に学習する形式になっている。3年生の病理学（本授業）は病理学総論という位置付けであり、次いで病理学各論を3-4年生に学ぶ。その後は医療における病理学の役割について理解してもらうことを目的に、必修ポリクリが4-5年生に、選択ポリクリが5-6年生を対象におこなわれる。また6年生の最後に専門性の高い内容を扱う実践臨床病態学講義がおこなわれる。

そうした大きな流れを踏まえて、ここでは3年生にふさわしい授業内容を設定している。アウトカムの中のB/知識の獲得と知識を応用する力を身につけることを目的とし、特に基礎的知識の獲得に加えて、病理学的知識の疾患への応用、病態の原因となる病理組織の理解へ展開する能力、態度を身につけることを目的としている。さらに学習方法、自己研鑽として、課題学習を通じ、課題を解決し、取り組み姿勢を持ち、TBL学習では、議論を行い、チーム内の同僚から助言を求められることができることを目的としている。

■ ■ 授業の到達目標

特に基礎的知識の獲得（B1 医学の基礎となる病理学の幅広い知識を身につける。B2 病理学の知識を病因・病態の理解に活用できる）に加えて、病理学的知識の疾患への応用、病態の原因となる病理組織の理解（B3 臨床医学の知識を有し、基礎医学の知識と関連付けて説明できる。B5 様々な領域の知を横断的に関連づけ、総合することができる。）へ展開する能力、態度を身につけ、臨床実習に関して診療を行うための基本的な知識を身につける（E5）ことを目的としている。さらに学習方法、自己研鑽として、課題学習を通じ、課題を解決し、取り組み姿勢を持つことができる（A1）TBL学習では、議論を行い、チーム内の同僚から助言を求められることができる（A4）実習、課題学習では知識の習得に積極的に取り組むことができる（H2）課題を解決するための方法を考え、段階的に取り組むことができる（H3）ことを身につけることを目的としている。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

ディプロマポリシーの中では特に

1. 医師にふさわしい倫理観と責任感を有し、医療チームの中で医師として適切な行動をとることができ、他者と信頼関係を築ける者
2. 医師、医学研究者、医学教育者又は医療行政担当者となるために必要な知識を身に付けるとともに、新たな課題にも対応できる問題解決能力を修得した者と関連している。

■ ■ 授業概要

実際に人体病理学の経験があり、病理解剖を含む病理診断の実務経験のある教官が事業を行う。すべての講義、実習、TBLはそのような病理医で行われる。本学では、病理学総論の講義、実習、自己学習を基本としている。たとえば1日の授業で、4時間の講義、2時間の実習（標本観察）とレポート課題作成などの自己学習を想定している。また特に課題に対して自主的にグループ学習を行う時間（TBL）を設けて、アクティブラーニングを行う授業を設定している。3回の筆記試験を設けている。病理解剖を含む病理診断の実務経験を持つ病理医の教員が、その実務経験を活かして、基礎医学、臨床医学における病理学に関する授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義・顕微鏡（バーチャルスライド使用）実習・自己学習の繰り返しである。また第6回の授業ではTBL(team based learning)を行う。講義ノートはmoodleにupする予定である。

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	(10月20日) (担当: 横尾) 午前 1-3 時限 : 細胞損傷と適応 (講義) 場所: 臨床中講堂(変更の可能性あり) 午後 4-6 時限 : 講義の続き + 自己学習
第2回	(10月21日) (担当: 横尾、松村) 午前 1-3 時限 : 炎症 (講義) 場所: 臨床中講堂(変更の可能性あり) 午後 4-6 時限 : 講義の続き + 自己学習
第3回	(10月22日) (担当: 横尾、信澤、松村) 午前 1-3 時限 : 標本観察実習 場所: 顕微鏡実習室 午後 4-6 時限 : 自己学習
第4回	(10月23日) (担当: 横尾、信澤、松村) 午前 1-3 時限 : 自己学習 午後 14:00-15:00 : 試験1 場所: 未定
第5回	(10月27日) (担当: 横尾) 午前 1-3 時限 : 遺伝性疾患、小児疾患 (講義) 場所: 臨床中講堂(変更の可能性あり) 午後 4-6 時限 : 講義の続き + 自己学習
第6回	(10月28日) (担当: 横尾) 午前 1-3 時限 : 組織の修復 (講義) 場所: 臨床中講堂(変更の可能性あり) 午後 4-6 時限 : 講義の続き + 自己学習
第7回	(10月29日) (担当: 横尾) 午前 1-3 時限 : 標本観察実習 場所: 顕微鏡実習室 午後 4-6 時限 : 自己学習
第8回	(10月30日) (担当: 横尾) 午前 1-3 時限 : 自己学習 午後 14:00-15:00 : 試験2 場所: 未定

第9回	(11月04日) (担当: 小山) 午前 1, 2, 3 時限: 腫瘍1,2 (講義) 場所: 顕微鏡実習室 午後 4, 5, 6 時限: 腫瘍 (顕微鏡実習室)
第10回	(11月05日) (担当: 小山) 午前 2, 3 時限: 腫瘍3,4 (講義) 場所: 顕微鏡実習室 午後 4, 5, 6 時限: 腫瘍 (顕微鏡実習室)
第11回	(11月06日) (担当: 小山) 午前 2, 3 時限: 腫瘍(講義 練習問題) 場所: 臨床中講堂 午後 4, 5, 6 時限: レポート作成 練習問題
第12回	(11月10日) (担当: 佐野) 午前 2, 3 時限: 循環障害1. 2 (講義) 場所: 臨床中講堂 午後 4, 5, 6 時限: 循環障害 (実習) 場所: 顕微鏡実習室
第13回	(11月11日) (担当: 佐野) 午前 2, 3 時限: 循環障害3. 4 (講義) 場所: 臨床中講堂 午後 4, 5, 6 時限: 循環障害 (実習) 場所: 顕微鏡実習室
第14回	(11月12日) (担当: 小山 佐野 越 下田) 午前 午後 : TBL 場所: 顕微鏡実習室 詳細はmoodleに
第15回	(11月13日) (担当: 小山 佐野) 試験: 時間、場所は別途連絡
第16回	* いずれも病理の実務経験のある教員が行う。

■ 授業時間外学習情報

※ 1 単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて 4 5 時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】 1 5 ~ 3 0 時間 (授業時間外 3 0 ~ 1 5 時間)

【実験・実習・実技】 3 0 ~ 4 5 時間 (授業時間外 1 5 ~ 0 時間)

講義期間中は課題のレポート作成が必須である。また、各単元の講義終了後にはミニテストを行うため、講義・実習後の復習も必要である。

少人数グループ討論を中心とした病理学的課題を行うため、事前に配布する課題について各自で事前学習を行い、十分な準備をした上で講義・実習に望むこと。

■ 成績評価基準 (授業評価方法)

以下の項目を評価・集計したうえで、GPAに基づいて成績とします。

評価項目: 対応する到達目標 (コンピテンシー番号): 配点比率 (%)

①最終試験: 到達目標: E5 B1 B2 B3 B5: 70%

②顕微鏡実習レポート: 到達目標E5 B2 H2: 10%

③ミニテスト: 到達目標 E5 B1 B2 B3: 10%

④課題学習、TBLでの参加・貢献度、学習態度: 到達目標: B2 A1 A4 H2 H3: 10%

■ 受講条件 (履修資格)

2年生までに習得すべき必修科目をすべて習得していること

■ メッセージ

■ キーワード

実務経験 病理 腫瘍 炎症 組織 循環障害 細胞損傷 実務経験

■ この授業の基礎となる科目

解剖学 組織学 生化学 生理学 生物学一般

■ 次に履修が望まれる科目

法医学 検査学 臨床医学

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

参考書1	ISBN	978-4890133536				
	書名	ルーピン病理学: カラー: 臨床医学への基礎				
	著者名	エマニュエル・ルーピン 編, 鈴木利光, 中村栄男, 深山正久, 山川光徳, 吉野正 監訳,	出版社	西村書店	出版年	2007
	備考					
参考書2	ISBN	978-4621086988				
	書名	ロピンス基礎病理学				
	著者名	Vinay Kumar, Abul K.Abbas, Jon C.Aster 原著, 豊國伸哉, 高橋雅英 監訳,	出版社	エルゼビア・ジャパン	出版年	2014
	備考					

	備考					
参考書3	ISBN	978-4263200735				
	書名	病理組織の見方と鑑別診断				
	著者名	松原修, 真鍋俊明, 吉野正編,	出版社	医歯薬出版	出版年	2007-
	備考					
参考書4	ISBN	978-4830604768				
	書名	組織病理アトラス				
	著者名	小田義直, 坂元亨宇, 深山正久, 松野吉宏, 森永正二郎, 森谷卓也 編集,	出版社	文光堂	出版年	2015
	備考					

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl2.media.gunma-u.ac.jp/course/index.php?categoryid=23>

moodle 専門教育 (学部) 医学部医学科内

病理学 (病態病理学)

病理学 (病理診断学)

2020 年度 後期 医学部 医学科		日英区分 :日本語
法医学		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB3012	MB3PM02500	
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
小湊 慶彦 [Kominato Yoshihiko]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ~ 3年次	1

■ ■ 授業の目的

法医学を学習することにより、死の概念やその原因等の知識を獲得し、地域医療向上に貢献する能力の項目の一つである「保健・医療に関わる制度」の理解を目指す。法医学は法律上の問題解決に医学および自然科学の知識を応用する学問であり、死因究明が業務のひとつである。死亡は、自然死である病死とそれ以外の死である異状死に分けられ、法医学は後者である異状死を主たる対象とする分野である。一方、一般臨床医は異状死を扱う機会があり、死後診察(検案)や死亡診断書(検案書)の発行を求められる。医学教育モデル・コア・カリキュラムには死亡診断書(検案書)の作成が到達目標として記載されている。法医学の授業はこのモデルカリキュラムに沿って展開される。法医学ユニットの最終的な目標は死体検案書の作成である。その作成には法医学の知識が必要であり、それらを学習したうえで、法医学ユニットの終盤に死体検案書の作成に関する演習が設けられている。そこでは、学生自身が、それまでに得た法医学の知識を活用して、死因、死因の種類および死後経過時間等を判断し、実際の書類に記載するアクティブラーニングの形式を取っている。

■ ■ 授業の到達目標

1. 死の概念を理解する(B3)
2. 死体現象を理解する(B3)
3. 異状死体の取り扱いを理解する(F4)
4. 関連法規を理解する(F4)
5. 損傷・中毒を理解する(B3)
6. 内因性急死を理解する(B3)
7. 個人識別を理解する(B3)
8. 死因についての適切な考察から死亡診断書・死体検案書を作成できる(F4)。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連(評価の観点)

医学科ディプロマポリシーの2と関連している。

■ ■ 授業概要

1.法医学総論、2.死体現象、3.窒息、4.損傷、5.中毒、6.異常環境、7.内因性急死、8.個人識別、9.死後の検査、10.検案の実際等に関しては講義を行います。また、7.内因性急死に関しては、病理組織学実習を行います。11.検案書の作成に関しては、症例を提示しますので、講義で学んだ知識を生かして、実際に検案書を作成してください。その後に学生が作成した検案書を提示し、誤りを指摘しますので、自身が作成した検案書を点検してください。

解剖資格、法医学会認定医の資格を持ち法医解剖医の実務経験を持つ教員が、その実務経験を活かして、法医解剖や死体検案書の書き方等に関する授業を行う。

■ ■ 授業の形式(授業方法)

講義、演習および実習です。

■ ■ 授業スケジュール

回数	授業日	授業題目	担当教官名
第 1 回	11月17日1時限	法医学総論	小湊慶彦
第 2 回	11月17日2時限	死体現象	小湊慶彦
第 3 回	11月17日3時限	損傷1	佐野利恵
第 4 回	11月17日4時限	中毒1	高橋遼一郎
第 5 回	11月17日5時限	異常環境	早川輝
第 6 回	11月17日6時限	中毒2	高橋遼一郎
第 7 回	11月18日1時限	内因性急死	下田雄輝
第 8 回	11月18日2時限	窒息総論1	早川輝
第 9 回	11月18日3時限	損傷2	佐野利恵
第10回	11月18日4時限	窒息2	早川輝
第11回	11月18日5時限	老人虐待	佐野利恵
第12回	11月18日6時限	嬰兒殺	高橋遼一郎
第13回	11月19日1時限	死後の検査	平澤聡
第14回	11月19日2時限	検案の実際1	小湊慶彦
第15回	11月19日3時限	検案書の書き方	小湊慶彦
第16回	11月19日4・5時限	検案の実際2	田中義
第17回	11月19日6時限	予備	
第18回	11月20日2時限	遺伝・個人識別1	佐野利恵
第19回	11月20日3時限	遺伝・個人識別2	竹下治男
第20回	11月20日4時限	遺伝・個人識別3	神田芳郎
第21回	11月20日5・6時限	内因性急死2	大澤資樹
第22回	11月24日1-3時限	病理組織学実習	小湊慶彦 顕微鏡実習室
第23回	11月25日4時限	試験	小湊慶彦 アメニティ講義室

■ ■ 授業時間外学習情報

※1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】15~30時間(授業時間外30~15時間)

【実験・実習・実技】30~45時間(授業時間外15~0時間)

希望者には法医解剖の見学を適宜許可する。

■ ■ 成績評価基準(授業評価方法)

以下の項目を評価・集計したうえで、GPAに基づいて成績とします。

評価項目：対応する到達目標：配点比率（%）

- ① 筆記試験（多肢選択問題）：到達目標1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8：50%
- ② 筆記試験（記述問題）：到達目標8：35%
- ③ 提出課題・レポート：到達目標6,7：15%

■ 受講条件（履修資格）

医学部医学科生命医学講義Ⅳの受講者および個別に認められた者

■ メッセージ

積極的に授業に取り組む姿勢が望ましい。

多肢選択問題においては、正解率96%以上または20%以下の問題は不適切問題とし、評価から除外することがある。

■ キーワード

法医学、異状死体、死体現象、個人識別、死亡診断書・死体検案書、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

医学全般、科学全般

■ 次に履修が望まれる科目

医学全般、科学全般

■ 関連授業科目

医学全般、科学全般

■ 教科書

教科書1	ISBN	4260138634				
	書名	標準法医学・医事法				
	著者名	上山滋太郎 監修,石津日出雄,高津光洋 編,	出版社	医学書院	出版年	2000
	備考					

■ 参考書

参考書1	ISBN	9784307030472				
	書名	現代の法医学				
	著者名	永野耐造,若杉長英 編集,	出版社	金原出版	出版年	1998
	備考					

■ 教科書・参考書に関する補足情報

講義および実習への携行を奨励

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2020 年度 前期 医学部 医学科		日英区分 :日本語
遺伝医学		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB3016	MB3PM01700	
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
小湊 慶彦 [Kominato Yoshihiko]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ~ 3年次	1

■ ■ 授業の目的

基礎医学、臨床医学における遺伝学上の知見・知識を身につけ、それらがお互いに関連していることを理解し、遺伝学的側面を有するさまざまな臨床上の問題に対応できることを目指す。また、これらの学習を通じ、知識の獲得と知識を応用する力を涵養する。

■ ■ 授業の到達目標

1. ヒトの遺伝の基本的知識を身につける。(B1)
2. 病気に関わる遺伝子異常を理解する。(B2)
3. 基礎医学、臨床医学における遺伝学上の知見・知識がお互いに関連していることを理解する。(B3)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

医学科DPの2、3と関連する。

■ ■ 授業概要

基礎遺伝学の続きの科目です。基礎遺伝学を補充する形で授業3回を行います。続いて、症例を題材に学生発表を行ってまいります。学生発表時に質疑応答を行い、さらに講義を補充する形で講義を行います。この科目の最後に多肢選択形式のテストを行います。試験成績の不良者に対しては、再試とは別に補講を行います(3時間を予定)。
臨床経験豊富な実務経験を持つ教員が、その実務経験を活かして、基礎医学、臨床医学における遺伝学に関する授業を行う。

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

講義、学生発表等です。基礎遺伝学を補充する形で授業3回を行います。続く授業では少人数のグループ発表と教員による解説を組み合わせで行います。グループ発表に関しては第4回授業時に説明があります。

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	授業日 : 8月31日 題目・内容: 人類遺伝学概説・遺伝現象の生物学的基礎、ゲノムの構成、突然変異 担当教官 : 小湊慶彦
第2回	授業日 : 9月7日 題目・内容: 転写調節とトランスクリプトーム 担当教官 : 鯉淵典之
第3回	授業日 : 9月14日 題目・内容: エピジェネティクスと疾患 担当教官 : 鯉淵典之
第4回	授業日 : 9月28日 題目・内容: 臨床医学における遺伝学 担当教官 : 本島敏乃
第5回	授業日 : 10月5日 題目・内容: 遺伝性貧血症・以後の授業方法や評価方法などの説明 担当教官 : 田村遵一
第6回	授業日 : 10月12日 題目・内容: 遺伝子異常による悪性腫瘍・白血病、大腸がん、肺がん 担当教官 : 田村遵一
第7回	授業日 : 10月19日 題目・内容: 遺伝子異常による小児疾患 担当教官 : 本島敏乃
第8回	授業日 : 10月26日 題目・内容: 遺伝子異常による代謝性疾患・内分泌異常、糖尿病、脂質代謝異常 担当教官 : 山田正信
第9回	授業日 : 11月2日 題目・内容: 遺伝子診療部で対応している遺伝疾患 担当教官 : 小澤厚志
第10回	授業日 : 11月9日 題目・内容: 遺伝子異常による心血管疾患・心筋症、血管異常 担当教官 : 倉林正彦
第11回	授業日 : 11月16日 題目・内容: 染色体異常、性分化の異常、奇形 担当教官 : 日下田大輔

第12回	授業日 : 11月30日 題目・内容: 遺伝的多型の基礎とその医学的応用 担当教官 : 小湊慶彦
第13回	授業日 : 12月7日 (15:20~16:20) 題目・内容: 遺伝子異常による皮膚疾患 担当教官 : 茂木精一郎
第14回	授業日 : 12月8日 (11:00~12:00) 題目・内容: 遺伝子異常による神経変性疾患と神経筋疾患 担当教官 : 池田佳生
第15回	授業日 : 12月9日 (11:00~12:00) 題目・内容: 試験 担当教官 : 小湊慶彦 試験会場 : 臨床大講堂

■ 授業時間外学習情報

※ 1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】15~30時間 (授業時間外30~15時間)

【実験・実習・実技】30~45時間 (授業時間外15~0時間)

少人数グループによる発表を行うため、割り当てられた症例や課題についてグループごとに学習し、十分に準備をした上で発表に臨むこと。

■ 成績評価基準 (授業評価方法)

以下の項目を評価・集計したうえで、GPAに基づいて成績とします。

評価項目: 対応する到達目標: 配点比率 (%)

①発表: 到達目標2、3: 20%

②期末筆記試験: 到達目標1、2: 80%

■ 受講条件 (履修資格)

■ メッセージ

正当な理由があつて欠席する時は、事前に連絡し手続きをとること。

多肢選択問題においては、正解率96%以上または20%以下の問題は不適切問題とし、評価から除外することがある。

■ キーワード

生殖細胞、体細胞、染色体、クロマチン、体細胞分裂、成熟分裂、メンデル、ゲノム、DNA、対立遺伝子、遺伝子記号、家系図、優性、劣性、遺伝、常染色体、性染色体、伴性遺伝、遺伝子発現、ポリジーン、遺伝、多因子病、双生児、奇形、性の決定、連鎖、遺伝子操作、PCR、遺伝子地図、染色体異常、選択 (淘汰)、交配、突然変異、分子病理学、近親婚、遺伝荷重、遺伝的多型、進化、ミトコンドリア性遺伝病、免疫遺伝学、腫瘍遺伝学、遺伝相談、遺伝子診断、出生前診断、遺伝子治療、血液型、遺伝マーカー、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

基礎遺伝学

■ 次に履修が望まれる科目

臨床医学全般

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

参考書1	ISBN	9784895926003				
	書名	トンブソン&トンブソン 遺伝医学				
	著者名	ロバート L. ナスバウム, ロデリック R. マキネス, ハンチントン F. ウィラー 編, 福嶋義光 監訳,	出版社	メディカル・サイエンス・インター ナショナル	出版年	2009
	備考					

備考	OMIM (http://www.ncbi.nlm.nih.gov/omim/).
----	---------------------------------------------------------------------------------------------

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

放射線基礎医学

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB3017	MB3PM03600	
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
対馬 義人 [Tsushima Yoshito], 大野 達也 [Ohno Tatsuya], 河村 英将 [Kawamura Hidemasa]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ~ 3年次	1

■ ■ 授業の目的

1. 放射線の人体への影響, 医学利用について基礎的・臨床的な見地から理解する。
2. 画像診断 (X線写真、CT、MRI、核医学、IVR) の基礎的原理について理解する。

■ ■ 授業の到達目標

1. 放射線の人体への影響, 医学利用について基礎的な知識を持ち、説明することができる (E5, E12, E13)。
2. 画像診断 (X線写真、CT、MRI、核医学、IVR) の基礎的原理について理解し、説明することができる (E5, E12, E13)。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

ディプロマポリシーの、2,3と関連している。

■ ■ 授業概要

放射線の概要, 人体に対する影響, 診断や治療への応用について解説する。

臨床放射線医の実務経験を持つ教員が、その実務経験を活かして、放射線治療と放射線診断 (画像診断) に関する授業を行う。

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

講義形式である。

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	大野達也 放射線医学概論 放射線生物学総論 腫瘍に対する放射線の効果 (X線・重粒子線)
第2回	対馬義人 画像診断原理 1 単純X線写真、CTの原理
第3回	尾池貴洋 放射線の細胞、組織、臓器に対する影響 放射線生物作用の化学的過程、DNA損傷とその修復、細胞死、細胞周期、アポトーシス、治療可能比、線量の分割
第4回	対馬義人 画像診断原理 2 超音波検査、MRIの原理
第5回	渋谷圭 放射線の個体に対する影響 骨髄移植、放射線防護、遺伝的影響と環境放射線について
第6回	樋口徹也 画像診断原理 3 核医学の原理
第7回	田代 睦 放射線治療物理学 放射線生物作用の物理的過程、放射線治療装置の原理、放射線治療計画、加速器の医学利用
第8回	小山佳成 画像診断原理 4 IVRの原理
第9回	試験 アメニティ講義室

■ ■ 授業時間外学習情報

※ 1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】15～30時間 (授業時間外30～15時間)

【実験・実習・実技】30～45時間 (授業時間外15～0時間)

配布プリントとノートを読み返し、図表の内容や重要なポイントを理解すること。

教科書を参照することが望ましいが、配布プリントの内容のみで通常は十分なはずである。

■ ■ 成績評価基準 (授業評価方法)

筆記試験 : 100%

■ ■ 受講条件 (履修資格)

医学科3年生。

修士学生も申し出により可。

■ ■ メッセージ

放射線腫瘍学, 放射線診断学 (画像診断学), 核医学, 放射線治療学の基礎になる講義である.

■ キーワード

放射線生物学
放射線治療学
放射線診断学 (画像診断学)
核医学
実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

臨床・放射線腫瘍学
臨床医学 1 - 4
実践臨床病態学

■ 関連授業科目

■ 教科書

教科書1	ISBN	9784990699109				
	書名	臨床放射線生物学の基礎：日本語翻訳版				
	著者名	Michael Joiner, Albert van der Kogel 著, 安藤興一, 中野隆史 監訳, Joiner, Mi	出版社	放射線医療国際協力推進機構	出版年	2013
	備考					
教科書2	ISBN	4879491470				
	書名	放射線科医のための放射線生物学				
	著者名	Eric J.Hall 著, 浦野宗保 訳, Hall, Eric J, 浦野, 宗保, 1936-,	出版社	篠原出版	出版年	1995
	備考					
教科書3	ISBN	4815701697				
	書名	MRIの基本パワーテキスト：基礎理論から最新撮像法まで				
	著者名	レイ H. ハシエミ, クリストファー J. リサンチ, ウィリアム G. ブラッドリー, Jr. 著, 荒木カ 訳, Hashe	出版社	メディカル・サイエンス・インターナショナル	出版年	2019
	備考	MRIの基礎理論をきちんと勉強したい学生用。難解ですが、必要なことは全て網羅されています。				
教科書4	ISBN	4787822475				
	書名	フェルソン読める!胸部X線写真：楽しく覚える基礎と実践				
	著者名	Lawrence R.Goodman 著, 大西裕満, 粟井和夫 訳, Goodman, Lawrence Roger, 1943	出版社	エルゼビア・ジャパン	出版年	2016
	備考	医学生のための胸部単純写真の入門書。名著として知られる。できれば原著 (参考書にあり) で読んでほしい。				

■ 参考書

参考書1	ISBN	9781455774838				
	書名	Felson's principles of chest roentgenology : a programmed text				
	著者名	Goodman, Lawrence R. (Lawrence Roger), Felson, Benjamin,	出版社	Elsevier/Saunders	出版年	2015
	備考	医学生のための胸部単純写真の入門書。名著として知られる。平易な英語で書かれており、勉強会などに最適。				

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2020 年度 後期 医学部 医学科		日英区分 : 日本語
臨床薬理学総論		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB3020	MB3PM03100	
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
山本 康次郎 [Yamamoto Kohjiroh], 永野 大輔 (助教) [Daisuke Nagano]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ~ 3年次	1

■ ■ 授業の目的

これまで身につけてきた基礎医学・臨床医学の各分野における知識を互いに関連付けて応用することにより、基本的な総合診療能力である薬物治療の設計・実践に必要な知識・技術を身につける。また、医薬品の適正使用を題材として、最善の医療を実践するために、生涯にわたり自己研鑽を行う意欲を持ち続けることの重要性を学ぶ。

■ ■ 授業の到達目標

1. 医薬品の開発から承認に至るまでの過程を学び、さまざまな分野でキャリアを継続し、社会に貢献する意思を持つ (H4)
2. 医薬品情報を科学的に吟味し、Evidence-based medicine (EBM) を活用することができる (E11)
3. 生体機能蛋白の機能に基づく薬効の個人差を、基礎医学の知識と関連付けて説明できる (B3)
4. 特殊な母集団における薬物投与設計を、基礎医学の知識と関連付けて説明できる (B3)
5. 薬物間相互作用が生じる機構を、基礎医学の知識と関連付けて説明できる (B3)
6. 薬効の個人差に関与する様々な領域の知を横断的に関連付け、総合することができる (B5)
7. 薬害が生じた背景を題材として、人間と社会にかかわる知を広く学ぶ姿勢をもつ (B4)
8. 薬物動態の理論を応用し、頻度の高い疾患について適切な治療計画を立案できる (E7)
9. 処方箋の作成および医薬品の適切な取り扱いのために必要な知識を身につける (E5)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

ディプロマポリシーの 2, 3 と関連している。

■ ■ 授業概要

医薬品を薬物治療に用いる際に、薬物の薬理学的作用に加えて考慮すべきこととその技術を学びます。毎週、課題の提出とミニテストを実施します。薬剤師の実務経験を持つ教員が、その実務経験を活かして、医薬品や薬物治療に関する授業を行う。

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

提出課題に基づいた事前学習・復習が行われていることを前提に講義および演習を行います。

■ ■ 授業スケジュール

第1回	1月8日	2限	医薬品に関わる規制 (山本康次郎)
第2回	1月8日	3限	薬物有害反応・薬物アレルギー・薬物依存 (山本康次郎)
第3回	1月15日	2限	薬効の個人差の原因となる生体機能蛋白 (荒木拓也)
第4回	1月15日	3限	薬物間相互作用 (永野大輔)
第5回	1月22日	1限	医薬品の剤型と薬物動態 (山本康次郎)
第6、7回	1月22日	2、3限	小児・妊婦・臓器障害患者に対する薬物投与設計・演習 (山本康次郎)
第8、9回	1月29日	2、3限	TDM・処方設計演習 (荒木拓也)
第10回	2月5日	1限	処方箋の書き方 (荒木拓也)
第11回	2月5日	2、3限	医薬品が関与する事故とその対策・処方箋作成演習 (荒木拓也)
第12回	2月12日	1限	医薬品の開発と臨床試験・EBM (山本康次郎)
第13、14回	2月12日	2、3限	医薬品情報・薬害 (山本康次郎、増山ゆかり)
第15回	2月19日		試験

■ ■ 授業時間外学習情報

※ 1単位修得するためには、授業時間外の学修も含めて45時間の学修が必要です。

本学の学内規則で定める授業時間数は次のとおりです。

【講義・演習】 15～30時間 (授業時間外 30～15時間)

【実験・実習・実技】 30～45時間 (授業時間外 15～0時間)

生化学・生理学・薬理学の理解が十分であることを前提としているので、必要に応じて復習する。課題に基づいて自主学習が授業時間外に行われることを前提としている。

■ ■ 成績評価基準 (授業評価方法)

到達目標に関連した筆記試験 (80%)

提出課題と演習の成績 (20%)

■ ■ 受講条件 (履修資格)

3年次前期までのすべての科目を履修し、3年後期「薬理学」の学習も終了していること。

■ ■ メッセージ

基礎科学を臨床医学に応用する際の基礎となる内容を含むので、基礎科学を十分に理解した上で臨んでほしい。「医薬品」は、薬物を製剤化した「商品」でもあるので、社会科学的側面からの理解も深めていただきたい。

■ ■ キーワード

医薬品、副作用、薬物動態、EBM、処方、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

薬理学、生理学、生化学、解剖学

■ ■ 次に履修が望まれる科目

臨床医学 1～4、医療安全学

■ ■ 関連授業科目

有機化学、発達と老化、細菌学

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク